

しらおい
白老川水系河川整備計画

平成 29 年 3 月

北 海 道

白老川水系河川整備計画

目 次

第1章 流域と河川の現状	1
第1節 流域及び河川の概要	1
第2節 河川の現状と課題	4
第2章 河川整備計画の目標に関する事項	14
第1節 計画対象区間	14
第2節 河川整備計画の対象期間	16
第3節 洪水等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項	17
第4節 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持並びに 河川環境の整備と保全に関する事項	17
第3章 河川の整備の実施に関する事項	18
第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の 施行により設置される河川管理施設の機能の概要	18
第2節 河川の維持の目的、種類及び施行の場所	21
第4章 河川情報の提供、地域や関係機関との連携等に関する事項	22
第1節 河川に係る調査・研究などの推進に関する事項	22
第2節 河川情報の提供の促進に関する事項	22
第3節 地域や関係機関との連携等に関する事項	22
白老川水系河川整備計画・附図	23

第1章 流域と河川の現状

第1節 流域及び河川の概要

白老川は、その源を北海道白老郡白老町のホロホロ山、白老岳を連ねる山塊の一角に発し、ポンベツ川、毛^{もしらおい}白老川、横知^{よこしべつ}別川、ウトカンベツ川、ウヨロ川等の支川を合流しながら、白老^{ほんちよう}本町を貫流し太平洋に注ぐ流域面積179.4km²、幹川の流路延長24.2kmの二級河川である。

河川名の由来は、一説によると、アイヌ語のシラウ・オ・イ（蛇・多き・処）の意と言われている。（出典名：「北海道の川の名」S47.4 発刊）

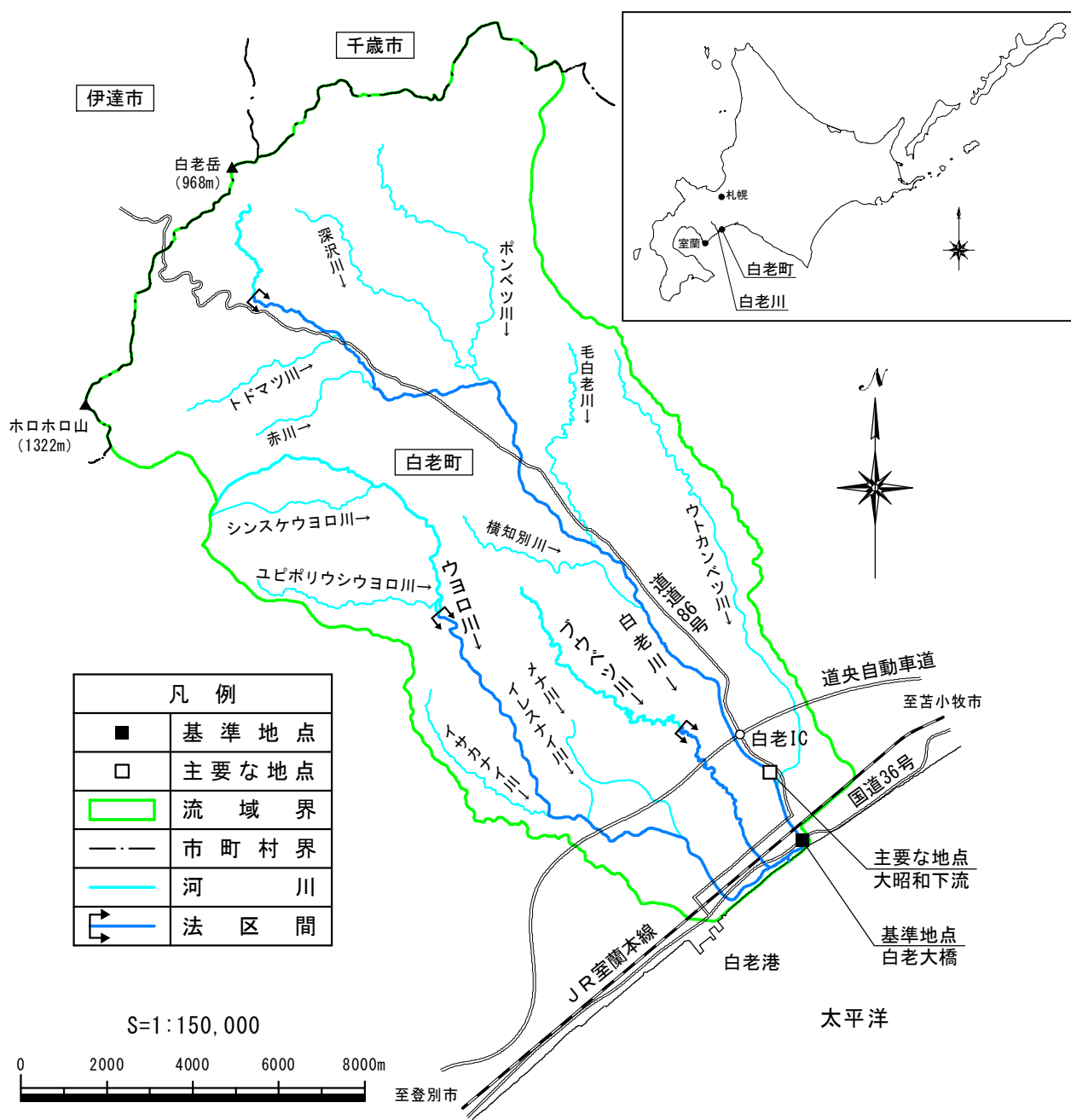


図1-1 白老川水系流域位置図

（地形・地質）

流域の地形は、道央自動車道から上流は、谷底平野を切り立った山裾に沿って流下しており、岩盤が露出した箇所も多くみられる。

道央自動車道から下流は、比較的緩やかに流下しており、河口付近で海岸線に沿うように流向を西へと転じ、ウヨロ川と合流後、太平洋へと注いでいる。

流域の地質は、新第三紀の白老層、別々川層、第四紀の森野層、支笏泥溶岩が分布しており、河川周辺は礫、砂、粘土による河成段丘堆積物層が分布している。

（気候）

流域の気候は、太平洋側気候の胆振日高区分に属し流域内に位置する森野観測所の年平均降水量は約2,200mmと北海道でも有数の豪雨地帯となっている。

年平均気温は約7℃で、気候の良い秋が長く続くため、冬の訪れは遅く、積雪量は少ない地域である。

（人口・産業）

流域を構成する白老町の人口は昭和60年をピークに減少し、平成22年国勢調査では19,376人となっている。一方、世帯数は平成17年をピークにほぼ横ばいに推移しており、平成22年国勢調査では8,412世帯となっている。

白老町の基幹産業は一次から三次産業まで比較的バランスよく構成されている。

一次産業では、北海道でも有数の黒毛和種「白老牛」の生産や養鶏（鶏卵）、しいたけ栽培などの農林業が盛んである。漁業としては目前に太平洋が広がり、水産資源に恵まれていることから、スケトウダラを中心にサケ、毛がに、ほっき貝等が盛んに水揚げされている。

二次産業では、良質で名高い「虎杖浜たらこ」を筆頭とした水産加工業の他、北吉原地区に位置する白老町最大の工場である日本製紙白老工場による製紙業などがあげられる。また、近年温和な気候を利用した太陽光パネルによる発電事業も盛んに進められている。

三次産業では、アイヌ民族博物館や虎杖浜温泉などを中心とした観光業があげられる。



「白老牛の放牧」



「虎杖浜たらこ」

出典：白老町 HP

（風土・文化）

白老町は古くから北海道の先住民族であるアイヌの人々が大きなコタン（集落）を形成し自然を神々の化身と考え、神々との共生により豊かな生活文化を育んできた。

この貴重な文化を後生に伝承するため「ポロトコタン」と言われる博物館等の施設群が造られ、「ユネスコ無形文化遺産」に登録された「アイヌ古式舞踊」の公開をはじめ伝統工芸品の制作・公開を行っている。



「ポロトコタン」



「アイヌ古式舞踊」

出典：アイヌ民族博物館 HP

（土地利用）

白老川の上流域は^{しこつとうや}支笏洞爺国立公園に指定され、流域の約90%を占める広葉・針葉樹林からなる山地で覆われており、中流域に形成された谷底平野は畑や牧草地として利用されている。また、下流域には工場や宅地からなる白老町市街地が形成されており近年、発電事業による太陽光パネルの整備も進められるなど白老町の社会・経済の基盤をなしている。

交通網としては道央圏と道南圏を結び、地域経済の根幹を担う国道36号、JR室蘭本線が下流市街地で横断しているほか、中流域には道央自動車道が横断し、白老インターチェンジも整備されている。

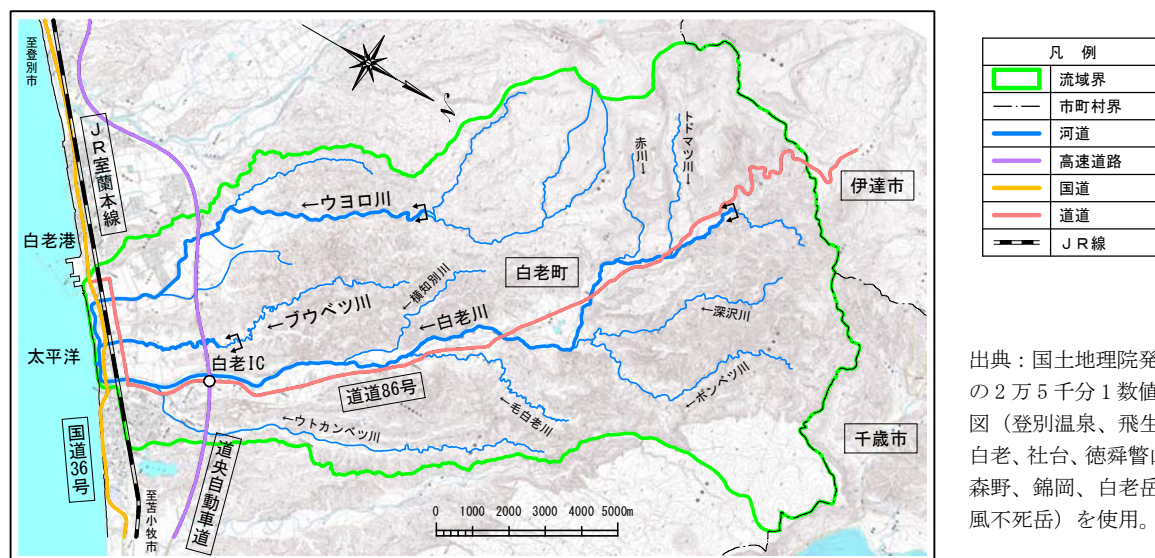


図1-2 基幹交通施設位置図

第2節 河川の現状と課題

1. 治水の現状と課題

〔白老川〕

白老川は河川断面が狭小で大きく蛇行していたことから、昭和38年8月豪雨により家屋79戸、昭和45年9月豪雨により農地約10haと度重なる浸水被害を受け、これを契機として昭和46年から平成元年にかけて局部改良事業ならびに中小改修事業により河口から6.4km区間について堤防整備、河道掘削が行われた。その間にも昭和56年8月には台風15号と大雨前線により、下流部を中心として、家屋212戸、農地約75haにおよぶ甚大な被害を被っている。

一連の工事により一定の治水安全度は確保されたが、白老川の河口付近には資産が集中している市街地が広がっており、土地開発による資産の増加も顕著であり、一度氾濫が生じれば甚大な被害が生じる恐れがある。加えて、近年、局地的な豪雨の発生頻度も増加しており、平成26年9月には白老町で大雨特別警報が発表されたことなどから、一層の治水安全度の向上が課題となっている。

なお、本水系は過去において、津波や高潮による被害は発生していない。



白老川 河口付近から上流



白老川 国道白老大橋付近から上流



白老川 道央自動車道白老川橋下流から上流



白老川 第二落差工付近から上流

〔ウヨロ川〕

ウヨロ川は昭和 38 年 8 月豪雨により家屋 63 戸、農地約 75ha、昭和 40 年 9 月豪雨により家屋 6 戸、農地約 35ha に及ぶ甚大な被害を受け、更に翌年、昭和 41 年に融雪を伴う降雨により氾濫被害が発生したため、昭和 41 年から 44 年にかけて災害関連事業により JR 迂寄川橋から上流 3.1km 区間について堤防整備、河道掘削が行われた。

災害関連事業により一定の治水安全度は確保されたが、平成 26 年 9 月豪雨により家屋 8 戸、農地約 10ha に及ぶ甚大な氾濫被害が発生していることから、一層の治水安全度の向上が課題となっている。



ウヨロ川 平成 26 年 9 月豪雨浸水状況
国道オヨロ橋付近から上流



ウヨロ川 平成 26 年 9 月豪雨浸水状況
KP3.9 付近



平成 26 年 9 月豪雨浸水状況
石山萩の里町内会



平成 26 年 9 月豪雨浸水状況
石山港町内会



〔ブウベツ川〕

ブウベツ川は昭和 38 年 8 月豪雨により家屋 35 戸、昭和 40 年 9 月台風 23・24 号により農地約 105ha に及ぶ甚大な被害を受けており、改修機運が高まっていた中、昭和 62 年 8 月豪雨により家屋 3 戸、農地約 15ha の浸水被害を受けたことから、これを契機に平成元年よりウヨロ川合流点から上流 3.7km を対象に改修工事が進められている。

現在ウヨロ川合流点より約 3.0km において河道掘削、築堤工、護岸工等が施工されているが、平成 26 年 9 月豪雨により氾濫被害や河岸侵食が発生していることから早期完成が課題となっている。



ブウベツ川 S62. 8. 26 洪水写真



昭和 62 年 8 月豪雨浸水状況
青葉団地付近



ブウベツ川 平成 26 年 9 月豪雨河岸侵食状況

2. 河川の利用及び河川環境の現状と課題

〔白老川〕

(1) 現状

白老川における河川水の利用については、製紙産業のための工業用水として $0.57871\text{m}^3/\text{s}$ の取水が行われているが、過去に渇水被害等が生じた事例はない。

白老川の河川空間の利用としては中下流部において、河川緑地や魚釣り、レクリエーション広場、祭り会場、散策などとして住民に広く親しまれている。

特に毎年6月第1土・日曜日には白老インター前の河川敷地を利用した「白老牛肉まつり」が開催されており、道内外から多くの観光客が訪れている。



「白老牛肉まつり」

出典：白老町 HP

白老川の水質については、「公共用水域における生活環境の保全に関する環境基準」による類型指定を受けており、上流水域は AA 類型、下流水域は A 類型に指定されている。

表1-1 公共用水域における生活環境の保全に関する環境基準の類型指定

水 域 名	該当類型	達成期間	基準地点名	備 考
白老川上流 ボンベツ川合流点から上流	AA	イ	森野橋	S47.4.1 指定 道告示第 1093 号
白老川下流 河口からボンベツ川合流点まで	A	イ	白老橋	

平成 17 年から 26 年までの BOD75% 値の最大値は、白老川上流の森野橋地点で $0.5\text{mg}/\ell$ 、白老川下流の白老橋地点では $0.6\text{mg}/\ell$ となっており、いずれも基準を満たしている。

源流からポンベツ川合流点に至る上流域は大部分を支笏洞爺国立公園が占め、自然豊かな環境となっている。植生は、エゾイタヤーシナノキ群落、常緑針葉樹植林が広く分布し、標高 1322m のホロホロ山付近には、ササーダケカンバ群落、エゾマツーダケカンバ群落などの亜高山帯植生が分布している。

河床には広く岩盤が露出しており、白老滝付近でハナカジカが確認されている以外では魚類の生息は確認されていないが、広範囲に及ぶ豊かな森林環境にはハイタカやヨタカなどの森林性の鳥類の他、ヒグマ、キタキツネ、エゾユキウサギなどの生息が確認されている。また、雪解けのたまりではエゾサンショウウオの産卵も見られる。



上流域の河道状況（道道旭橋下流）

ポンベツ川合流点から第 1 落差工に至る中流域では河道周辺は一部農地として利用されているものの兩岸の丘陵地には広く森林が分布しており、エゾシカ、キタキツネ、エゾリスなどが生息する自然豊かな環境となっている。

河道周辺はハンノキーヤチダモ群落が分布しており、河道はゆったりと蛇行を繰り返し、サクラマス（ヤマメ）、ハナカジカ、シベリアヤツメなどが確認されている。また、侵食により形成された崖地はカワセミやヤマセミなどが営巣地として利用しており、雪解けのたまりではエゾサンショウウオの産卵も見られる。



中流域の河道状況（道央自動車道高架下より下流）



ハナカジカ



サクラマス（ヤマメ）

第1 落差工から河口に至る下流域は、周辺を住宅地、工業地域として高度に利用されている。国道橋上流の河道内には、ヤナギ高木林が広く分布し、イイズナ、キタキツネなどの移動経路となっている他、礫を主体とした河床部にはサケの産卵床も見られる。

国道橋から下流は流路が大きく西へと屈曲し、トミヨ属淡水型やウグイなどが確認されている他、河口付近の緩流域はマガモやオオセグロカモメなどの水鳥の生息場となっている。



下流域の河道状況（町道白老橋下流）



トミヨ属淡水型



ウグイ

（２）課題

河川水質に関しては、良好な水質を維持できるよう今後も関係機関と連携し、水質の把握を継続していく必要がある。

河川環境に関しては、白老川が動植物の貴重な生息・生育環境を提供し、地域の重要な自然環境の基盤を形成していることを踏まえ、自然環境の保全に配慮した川づくりを推進する必要がある。

出典： 平成 16 年度施工 ブウベツ川小規模改修工事 白老川水系環境調査（（株）開発調査研究所）

【地形・地質・河床状況・水質・植物・魚介類・底生動物・鳥類・哺乳類・両生爬虫類・昆虫類】

平成 21 年度 白老川(特対)改修工事 環境調査 報告書（（株）北海道水工コンサルタンツ）

【魚類・産卵床】

〔ウヨロ川〕

（１）現状

ウヨロ川における河川水の利用については、養魚（さけ）用水として $0.02639\text{m}^3/\text{s}$ の取水が行われているが、過去に渇水被害等が生じた事例はない。

ウヨロ川の河川空間の利用としては、中流域において、都市緑地指定されている「萩の里自然公園」が整備されており、ウヨロ川周辺（里山人工林やサケの遡上するウヨロ川）と合わせ「生物多様性保全上重要な里地里山」に選定されている。

萩の里自然公園からウヨロ川中流にかけては総延長約 14km からなるフットパス（歩く道）と呼ばれる遊歩道が整備されており、起伏が少なく歩きやすいコースは老若男女を問わず人気がある。特に、秋にはサケの遡上・自然産卵を間近に見ることができるため、豊かな自然を身近に感じられるスポットとしても知られている。

また、河口付近には毎年 8 月～12 月にウライが設置され、人工ふ化放流のためサケの捕獲が行われている。



ウライの設置状況

ウヨロ川の水質については、「公共用水域における生活環境の保全に関する環境基準」の類型指定はされていないが、平成 25, 27, 28 年の調査結果によると、国道オヨロ橋付近における BOD の測定値は $1\text{mg}/\ell$ 以下で A A 類型に相当する値となっている。

源流からイサカナイ川合流点に至る上流域はエゾイタヤーシナノキ群落、常緑針葉樹植林が広く分布し、ヒグマ、エゾシカなどが確認されており、河川周辺ではヤマセミ、アオジ、ヒヨドリなどの鳥類が確認されている。

河床は礫や玉石から構成され、サクラマス（ヤマメ）、ウグイ、ハナカジカなどが確認されている。



上流域の河道状況（KP7.4 付近より上流）

イサカナイ川合流点から JR 迂寄川橋に至る中流域はハンノキ・ヤチダモ群落が分布している他、牧草地、住宅地としての利用も見られる。河道は昭和 41 年から 44 年にかけて災害関連事業により行われた堤防が設置されており、改修後に回復したと思われるヤナギ類やササ類などが河岸を覆い、エゾシカなどが確認されている。

河床は礫により構成され、サクラマス（ヤマメ）、ウグイ、イバラトミヨなどが確認されている。

また、三日月状に残された旧川部が点在しており、フナ属、イトヨ、エゾホトケドジョウなどが確認されている。



中流域の河道状況（道道いしやま橋より上流）

JR 迂寄川橋から河口に至る下流域は海岸線と平行に流れており、左岸側は工業地域として利用されている。

河岸にはススキやササ類が見られ、河床は礫や砂により構成されている。潮位の影響を受ける区間であり、イバラトミヨ、ジュズカケハゼ、ウキゴリなどが確認されている。



下流域の河道状況（国道オヨロ橋より下流）

（２）課題

河川水質に関しては、良好な水質を維持できるよう今後も関係機関と連携し、水質の把握を継続していく必要がある。

河川環境に関しては、ウヨロ川が道内でも有数のサケ遡上河川であり、地域の重要な自然環境の基盤を形成していることを踏まえ、自然環境の保全に配慮した川づくりを推進する必要がある。

出典： ウヨロ川中下流域の里山自然環境調査報告書（2006 年 12 月 NPO 法人ウヨロ環境トラスト）
【植物・鳥類・哺乳類・魚介類・底生動物・昆虫類】
ウヨロ川中流部におけるサケ調査報告書（2009～2012 NPO 法人ウヨロ環境トラスト）
【魚介類（サケ）】

〔ブウベツ川〕

（１）現状

ブウベツ川における河川水の利用はない。また、過去に渇水被害等が生じた事例はない。

ブウベツ川の河川空間の利用としては中下流部において、魚釣りなどが挙げられる。

ブウベツ川の水質については、「公共用水域における生活環境の保全に関する環境基準」の類型指定はされていないが、平成 14 年から 16 年の調査結果によると、新ブウベツ橋周辺における BOD の最大値は 1mg/l 以下で AA 類型に相当する値となっている。

源流からイシカリブウベツ川合流点に至る上流域はエゾイタヤシナノキ群落が広く分布しており、ヒグマやエゾシカなどの生息が確認されている。



上流域の河道状況（KP10.5 付近より上流）

イシカリブウベツ川から落差工地点に至る中流域ではエゾイタヤシナノキ群落が山地を占め、河道周辺にはハンノキーヤチダモ群落が分布し、ヨタカ、オオジシギ、カワセミなどが確認されている。河床は砂・礫で構成され、サクラマス（ヤマメ）、ウグイ、ハナカジカ、シベリアヤツメなど多様な種が確認されており、河岸周辺のたまりではエゾアカガエルの産卵も見られる。



中流域の河道状況（町道風雨別二号橋より下流）

落差工から河口に至る下流域は周辺を住宅地、工業地域として利用されている。ミズナラやヤチダモが一部でみられる以外は、河道周辺の植生は比較的乏しい状況であるが、落差工の下流地点は旧川が保全されており、サクラマス（ヤマメ）、ウグイ、ハナカジカ、シベリアヤツメ、スミウキゴリなど多様な魚類が確認されている。鳥類ではカワセミやオオジシギの他、オオワシやオジロワシなどの猛禽類も確認されている。



下流域の河道状況（町道新ブウベツ橋より上流）



下流域の河道状況（国道風雨別橋より下流）

（２）課題

河川水質に関しては、良好な水質を維持できるよう今後も関係機関と連携し、水質の把握を継続していく必要がある。

河川環境に関しては、ブウベツ川はこれまで旧川を保全するなど自然環境に配慮した川づくりを進めてきたが、その後の河道状況を継続的にモニタリングするとともに、今後も自然環境に配慮した川づくりを推進していく必要がある。

出典： 平成 14 年度ブウベツ川小規模改修工事環境調査報告書（(株)開発調査研究所）
【水質・植物・魚介類・鳥類】

平成 15 年度ブウベツ川小規模改修工事河道実施設計外検討報告書（(株)開発調査研究所）
【哺乳類・鳥類・魚介類・底生動物】

第2章 河川整備計画の目標に関する事項

本水系における河川整備計画の基本方針としては、河川改修の経緯、水害発生状況、及び河川環境の保全を考慮するとともに、既存の利水施設等の機能維持に配慮し、関係機関との調整を図り、整備にあたっての目標を明確にして、河川環境に配慮した整備を推進する。

第1節 計画対象区間

白老川水系河川整備計画の計画対象区間は、表2-1に示す北海道知事管理区間であるL=44.4km区間とする。

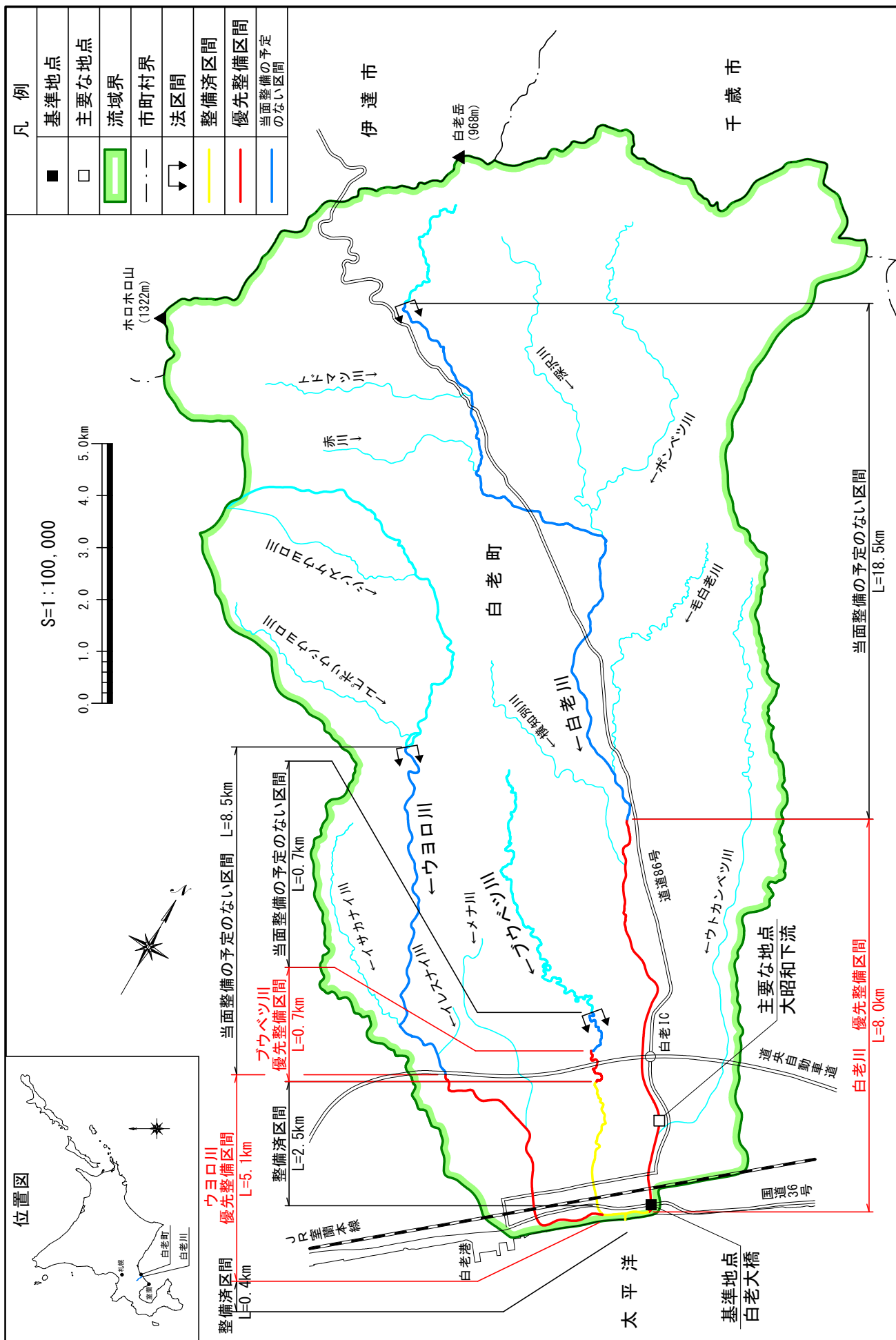
このうち本整備計画の対象となる優先整備区間は、北海道知事管理区間のうち、表2-2に示すL=13.8km区間とする。

表2-1 計画対象区間

河川名	北海道知事管理区間		
	上流端	下流端	延長(km)
白老川	左岸 白老郡白老町字森野国有林 113 林班先 右岸 同 102 林班先	海	26.5
ウヨロ川	白老郡白老町字石山 273 番地の2地先	白老川への合流点	14.0
ブウベツ川	白老郡白老町字石山 225 番地の1地先の上流端を示す標柱	ウヨロ川への合流点	3.9

表2-2 優先整備区間

河川名	優先整備区間		
	上流端	下流端	延長(km)
白老川	河口から約8.0km上流	海	8.0
ウヨロ川	町道新ウヨロ橋下流	ブウベツ川合流点	5.1
ブウベツ川	町道風雨別 ^{ふううべつ} 4号橋上流	ウヨロ川合流点より約2.7km上流	0.7



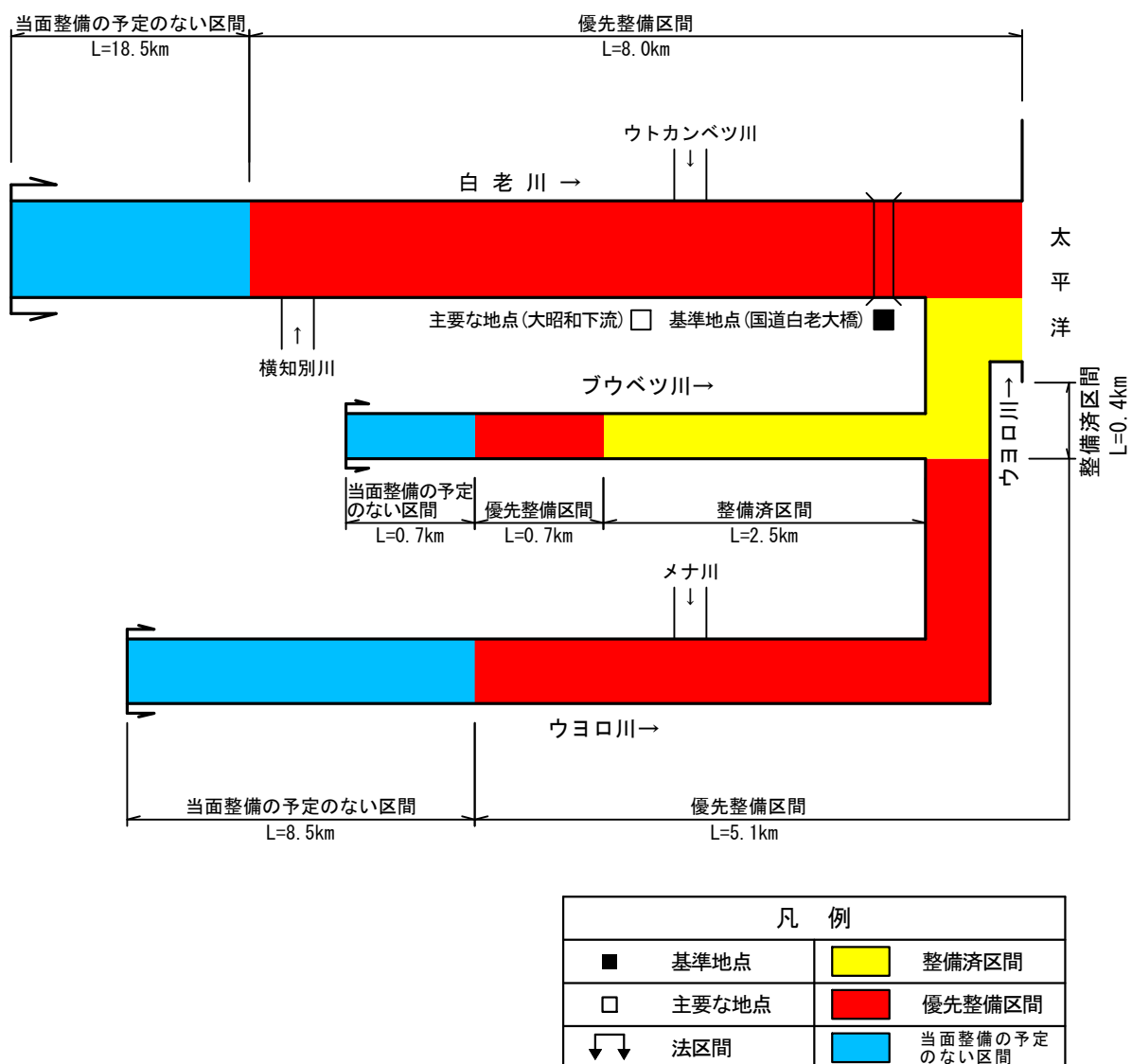


図 2-2 河川整備の現状及び整備計画対象区間概略図

第 2 節 河川整備計画の対象期間

本整備計画の計画対象期間は、河川整備計画策定から概ね 20 年間とする。

本整備計画は、現時点での流域の社会状況・自然環境・河道状況に基づき策定するものであり、策定後これらの状況の変化や新たな知見・技術の進歩等の変化が生じた場合は、必要に応じて見直しを行うものとする。

第3節 洪水等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

白老川流域の河川のうち、洪水被害の発生状況、氾濫区域内の資産の状況、現況流下能力などを踏まえて白老川、ウヨロ川及びブウベツ川について優先的に河川整備を行い、洪水による災害の発生の防止又は軽減を図るものとする。

〔白老川〕

白老川は、昭和56年8月に発生した洪水を踏まえ、白老町市街の洪水による災害発生の防止または軽減を目的とし、整備を進める。

〔ウヨロ川〕

ウヨロ川は、平成26年9月に発生した洪水を踏まえ、白老町市街及び農地の洪水による災害発生の防止または軽減を目的とし、整備を進める。

〔ブウベツ川〕

ブウベツ川は、昭和62年8月に発生した洪水を踏まえ、農地の洪水による災害発生の防止または軽減を目的とし、整備を進める。

第4節 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持並びに 河川環境の整備と保全に関する事項

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、白老川水系の水が工業用水などに利用されている現状を踏まえ、今後、河川の利用状況や水量・水質の把握を継続するとともに、流水の清潔の保持、多くの動植物の保護などの観点から調査を行い、利水者や関係機関と連絡調整を図りながら、適正かつ合理的な水利用を目指し、良好な水環境の保全に努めるものとする。現状の水質を悪化させる要因が認められた場合は、水質改善について関係機関との連絡調整を図るものとする。また、流水の正常な機能を維持するために必要な流量については、引き続きデータの蓄積に努め、今後さらに検討を行う。

河川環境の整備と保全に関しては、自然環境や河川の利用状況等について、必要に応じて調査を実施し、豊かな川の流れに育まれてきた多様な動植物の生息・生育環境の整備と保全を図るものとする。また、河川改修の実施にあたっては、地域の意見を踏まえつつ、治水上支障のない限り河畔林の保全を行うなど、治水と環境が調和した、後世に残すべき良好な河川環境となるよう配慮する。

外来種については、関係機関と連携して移入回避や必要に応じて駆除等を実施する。

第3章 河川の整備の実施に関する事項

第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

(1) 河川工事の目的

白老川水系河川整備基本方針に基づき、昭和56年8月、昭和62年8月及び平成26年9月の既往洪水を踏まえ、河道の掘削、堤防の整備、護岸の設置等により洪水の安全な流下を図る。

白老川水系河川整備の目標流量は図3-1に示すとおりである。

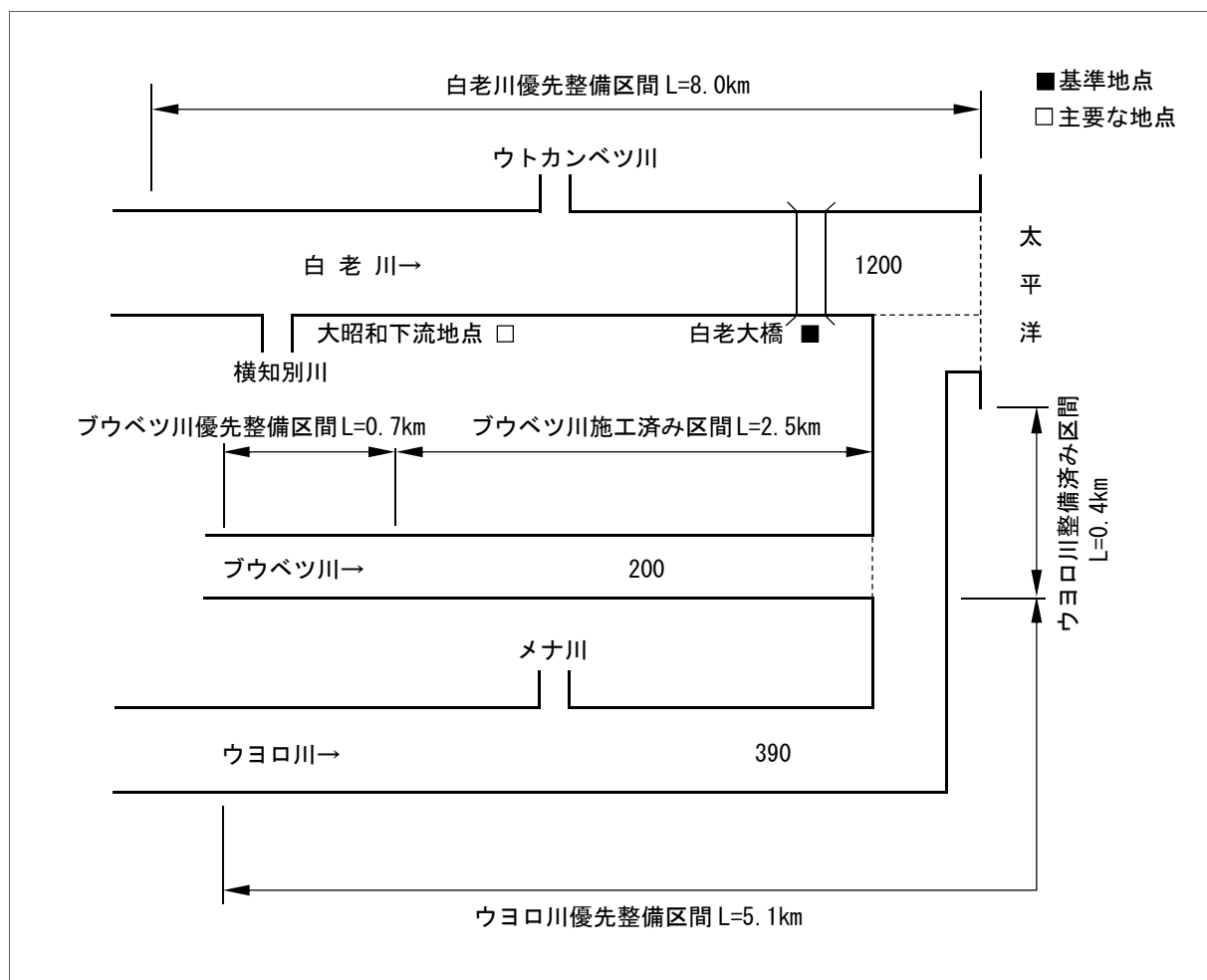


図3-1 整備計画目標流量配分図 (単位: m^3/s)

（２）河川工事の種類

〔白老川〕

- ・ 施工の場所

河口から約 8.0km 上流地点までの区間 L=8.0km

- ・ 河川工事の種類

河道の掘削、護岸の設置等

- ・ 河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

主要地点における計画高水位及び川幅などについては附図に示す。

- ・ 環境への配慮事項

河川環境の整備と保全に関しては、継続的に調査を行い、新しい知見を踏まえながら、河道の連続性の確保、河岸や河畔林の保全などにより現況の生態系に配慮する。

〔ウヨロ川〕

- ・ 施工の場所

ブウベツ川合流点から町道新ウヨロ橋下流までの区間 L=5.1km

- ・ 河川工事の種類

河道の掘削、堤防の整備、護岸の設置等

- ・ 河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

主要地点における計画高水位及び川幅などについては附図に示す。

- ・ 環境への配慮事項

河川環境の整備と保全に関しては、継続的に調査を行い、新しい知見を踏まえながら、河道の連続性の確保、河岸や河畔林の保全などにより現況の生態系に配慮する。

〔ブウベツ川〕

- ・施工の場所

ウヨロ川合流点より約 2.7km 上流地点から町道風雨別 4 号橋上流地点までの区間
L=0.7km

- ・河川工事の種類

河道の掘削、堤防の整備、護岸の設置等

- ・河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

主要地点における計画高水位及び川幅などについては附図に示す。

- ・環境への配慮事項

河川環境の整備と保全に関しては、継続的に調査を行い、新しい知見を踏まえながら、河道の連続性の確保、河岸や河畔林の保全などにより現況の生態系に配慮する。

第2節 河川の維持の目的、種類及び施行の場所

(1) 河川の維持の目的

河川の維持管理は、地域特性を踏まえつつ、洪水被害等の防止及び軽減、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持、河川環境の整備と保全等、総合的な観点から適切な実施に努めるものとする。

(2) 河川維持の種類及び施行の場所

洪水等による災害の発生を防ぐためには、堤防、護岸、樋門などの河川管理施設の機能を十分に発揮させることが必要である。このため、河川管理施設の現有機能の把握・評価を行った上で機能の低下を防止するための復旧・改善・機器の更新等を行う。

平常時は定期的な河川巡視を実施し、堤防、護岸、樋門等の河川管理施設の状況（法崩れ、亀裂、陥没等）、河道・河床の状況（土砂堆積、河床低下、河道内樹木等）について把握し、治水上支障となる箇所を早期発見に努め適切な処置を行う。

洪水時は、降雨や河川水位の状況から、河川管理施設の状況や異常の発生の有無を把握するため河川巡視を行う。増水終了後・地震発生後等は、河川管理施設の被害状況確認のための河川巡視を行い、適切な処置を行う。

堤防法面等については、堤防機能の維持のため、河川環境の保全に支障とならないように必要に応じて草刈り等を実施する。

備蓄資器材は、円滑な水防活動が行えるよう適性に備蓄する。また、定期的に備蓄資器材の点検を行い、資器材の保管状況を把握するとともに不足の資器材を補充する。

第4章 河川情報の提供、地域や関係機関との連携等に関する事項

第1節 河川に係る調査・研究などの推進に関する事項

河川整備、維持、管理の基礎資料とするため、水文観測を継続的に進めるほか、必要に応じ河川及び河川周辺の環境調査などを行い、データの収集に努め、河川改修後の環境への影響について、調査・研究を関係機関の協力を得ながら継続して実施する。

第2節 河川情報の提供の促進に関する事項

雨量・水位等河川情報については、平常時の河川利用や洪水時の防災情報として活用するためインターネット等を用い、関係機関や住民に幅広く提供し、河川情報の共有に努める。

また、計画規模や現況流下能力を超える洪水に対して極力被害の防止・軽減を図るため、関係機関と連携を図り、浸水想定区域図の作成やハザードマップ作成の支援などを行い、地域の防災力の向上に努める。

河川事業の紹介・河川愛護・美化思想の普及等、河川に関する広報活動、情報提供を行い、河川事業に関して広く理解を得られるよう努めるとともに、地域住民の治水、利水、河川環境に関する知識の向上と親水思想の高揚を図る。

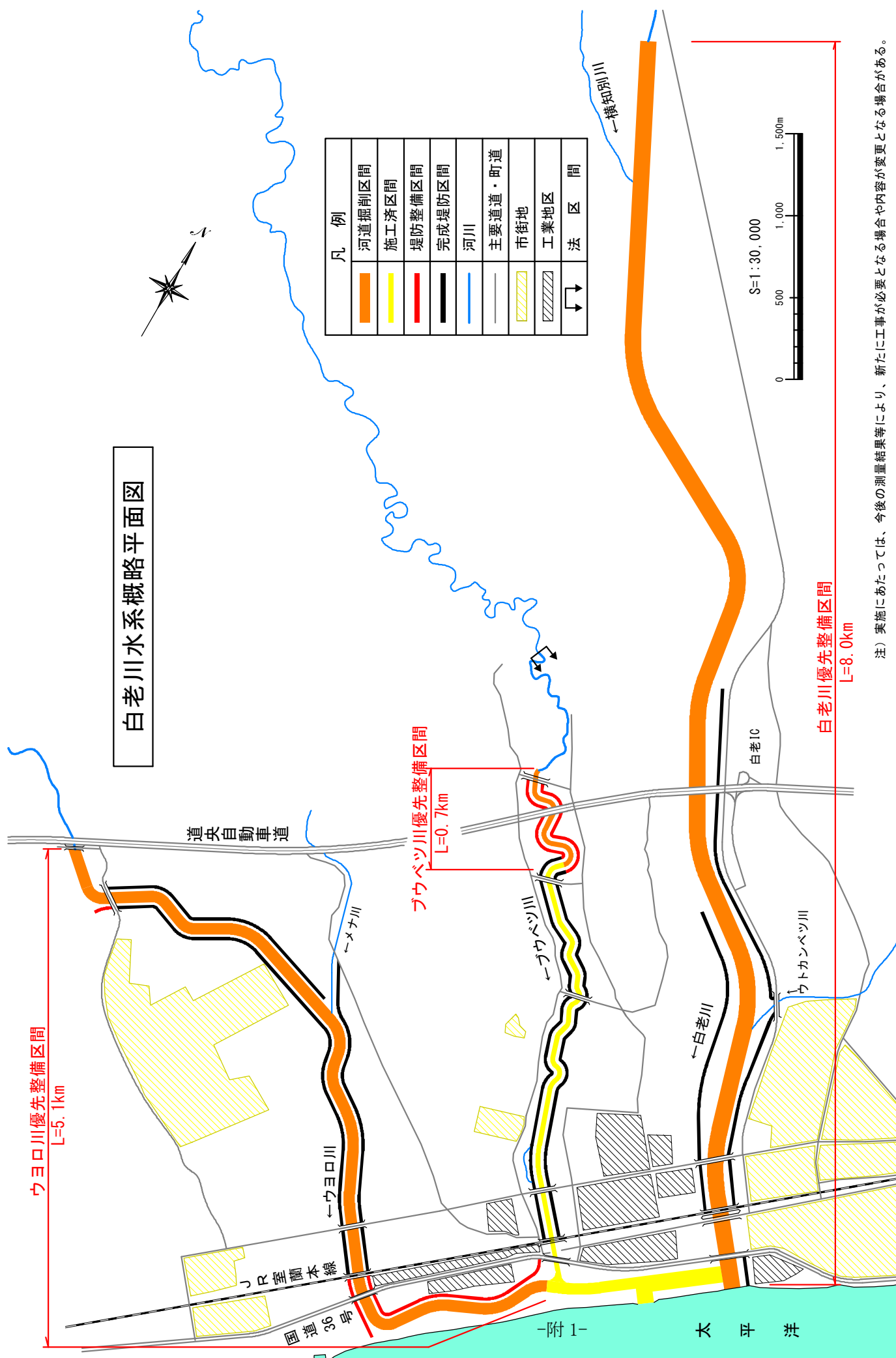
水質事故が発生した場合は、事故状況を適確に把握し、関係機関への速やかな連絡、事故後の河川・水質の継続的な監視、迅速な事故処理等を関係機関と協力して行う。

第3節 地域や関係機関との連携等に関する事項

洪水時の水防活動を迅速かつ円滑に行うため、その主体となる自治体と関係機関、河川管理者により連絡体制の確認、重要水防箇所の合同巡視、水防訓練など、水防体制の充実を図るとともに、備蓄資器材の備蓄状況等関連する情報について共有化を図る。

地域特性やニーズを反映させた河川整備の実施と河川管理を目指し、地域住民・関係機関との連携によって、川づくりへの住民参加や子供達への教育環境の場を提供するなどの利活用が図られるよう努める。

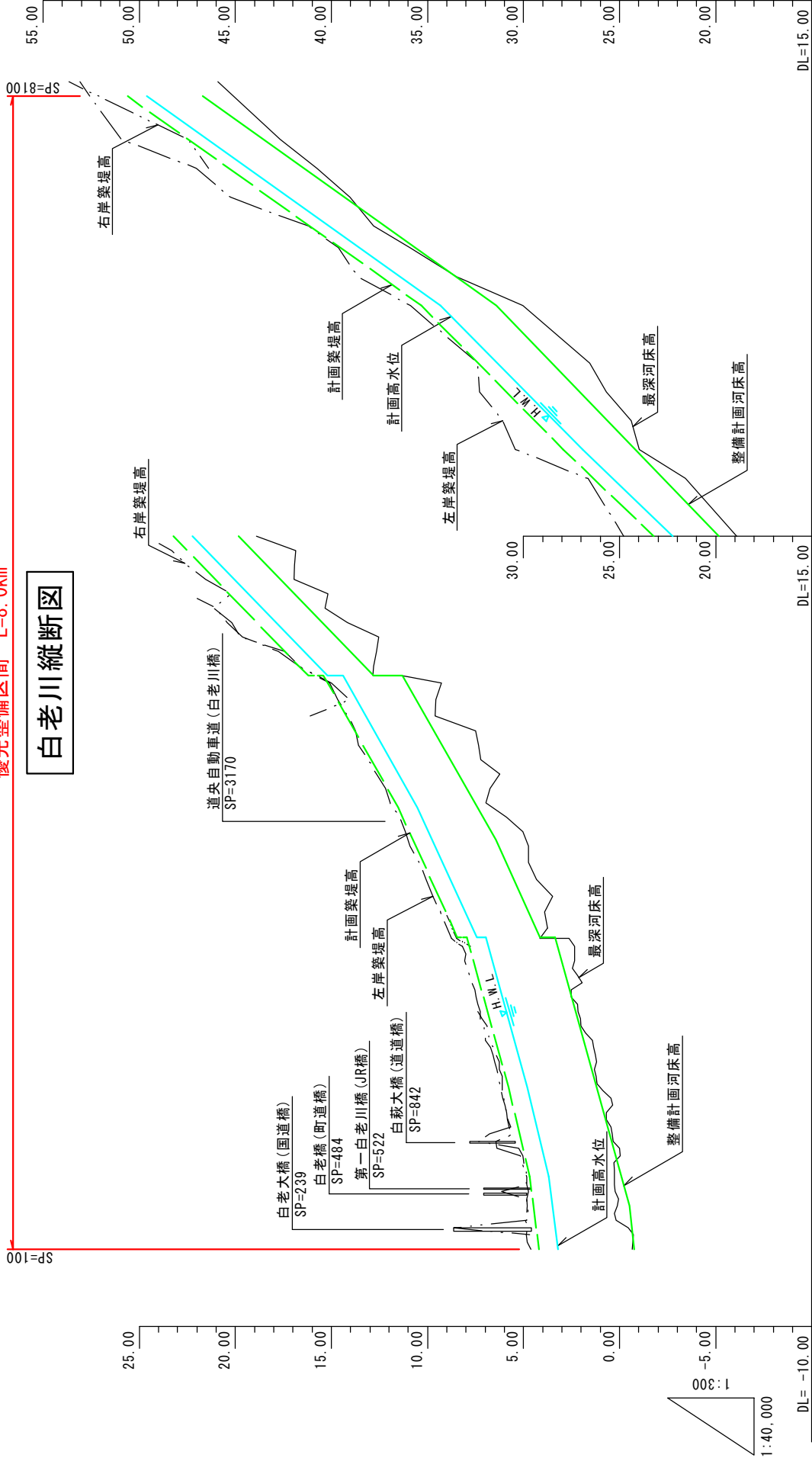
白老川水系河川整備計画・附図



注) 実施にあたっては、今後の測量結果等により、新たに工事が必要となる場合や内容が変更となる場合がある。

優先整備区間 L=8.0km

白老川縦断面図



※ 整備計画河床高：整備計画における河川工事や施設の維持管理を行う際の参考値									
計画築堤高	4.20	4.68	5.80	6.95	7.45	8.53	11.53	16.41	50.59
計画築堤勾配	1/1046	1/554	1/483	1/483	1/483	1/235	1/235	1/235	1/95
計画高水位	3.20	3.68	4.80	5.95	6.45	7.53	10.53	14.41	49.59
計画高水位勾配	1/1046	1/554	1/483	1/483	1/483	1/235	1/235	1/235	1/95
整備計画河床高	-0.75	-0.51	2.95	3.95	4.45	5.53	8.53	12.41	46.89
整備計画河床勾配	1/1254	1/483	1/483	1/292	1/292	1/235	1/235	1/235	1/95
測点	100	400	605	1226	2265	2940	3167	4080	8100

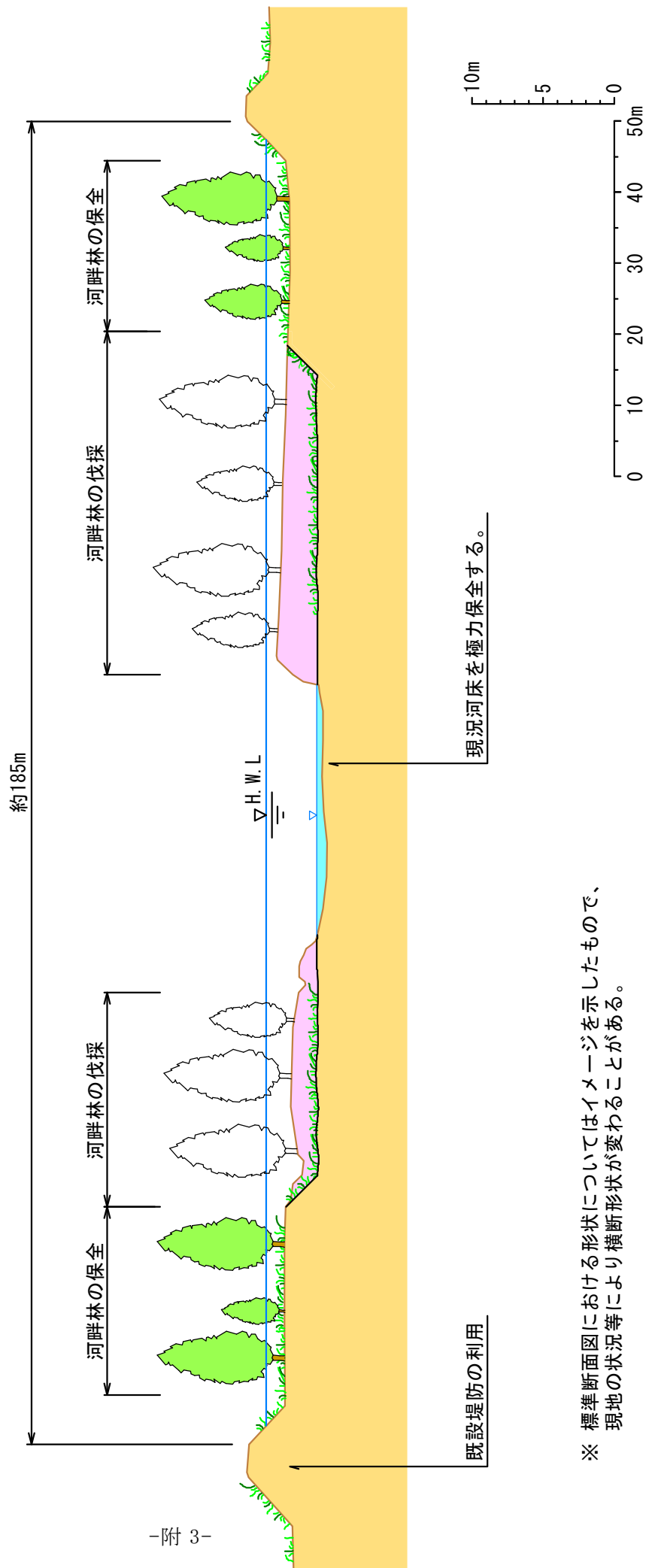
注) 実施にあたっては、今後の測量結果等により、新たに工事が必要となる場合や内容が変更となる場合がある。

白老川代表横断面図

V=1:400
H=1:800

SP=1350付近

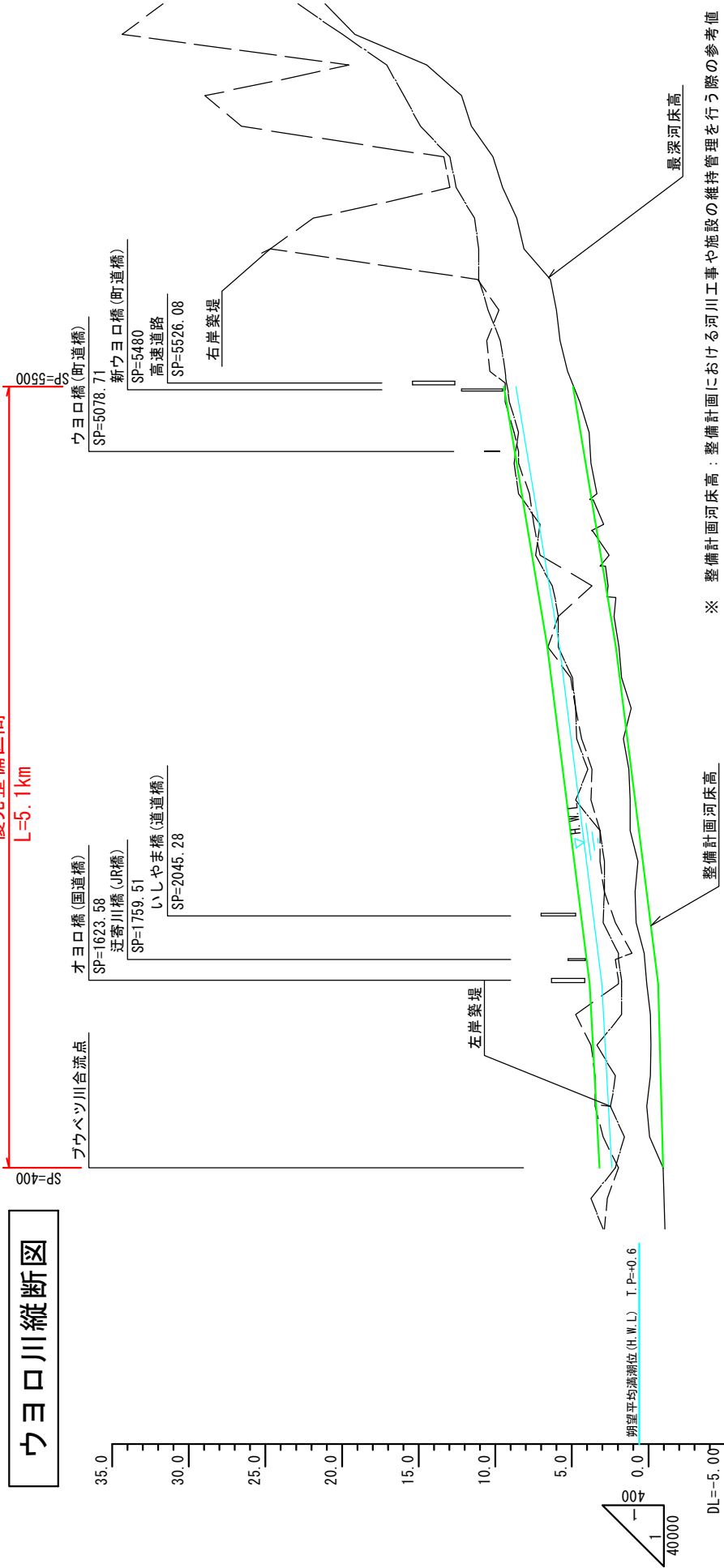
凡 例	
	現況断面
	整備計画河道
	切 土



※ 標準断面図における形状についてはイメージを示したもので、
現地の状況等により横断形状が変わることがある。

ウヨロ川縦断面図

優先整備区間
L=5.1km



計画築堤高	0.00	400.00	1600.00	3800.00	5500.00
計画高水位	2.42	3.22	3.06	5.81	8.64
計画高水勾配	1/1880	1/800	1/600	1/600	1/600
整備計画河床高	0.97	0.64	2.11	4.94	8.64
整備計画河床勾配	1/3600	1/800	1/600	1/600	1/600
測点	0.00	400.00	1600.00	3800.00	5500.00

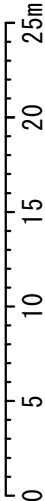
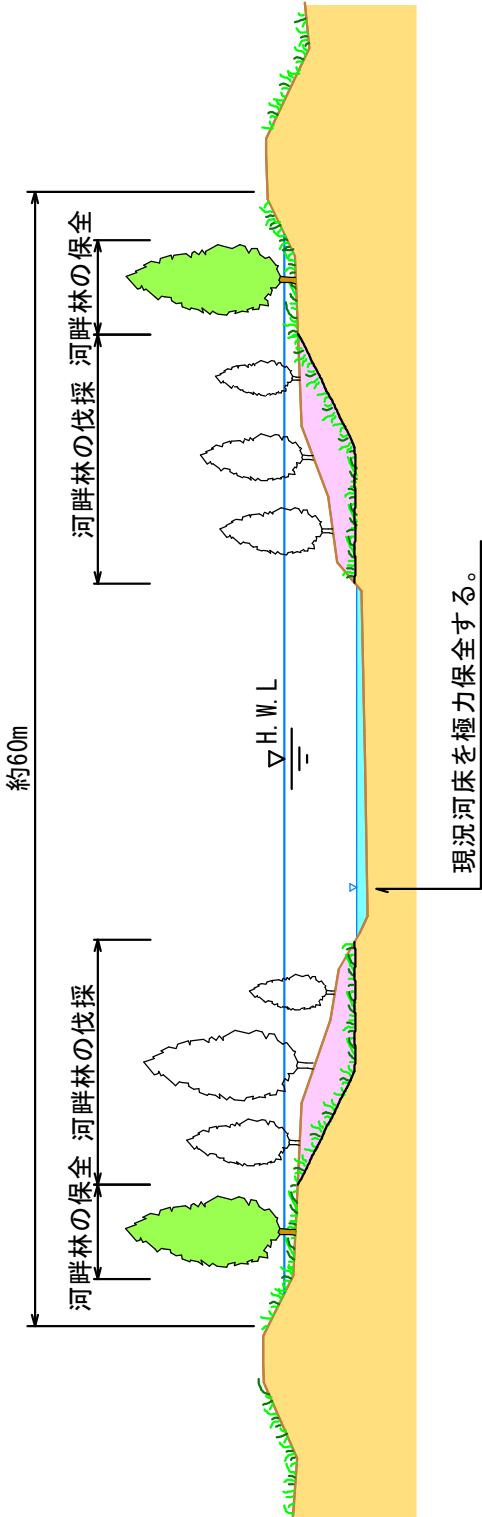
注) 実施にあたっては、今後の測量結果等により、新たに工事が必要となる場合や内容が変更となる場合がある。

ウヨロ川代表横断面図

V=1：400
H=1：400

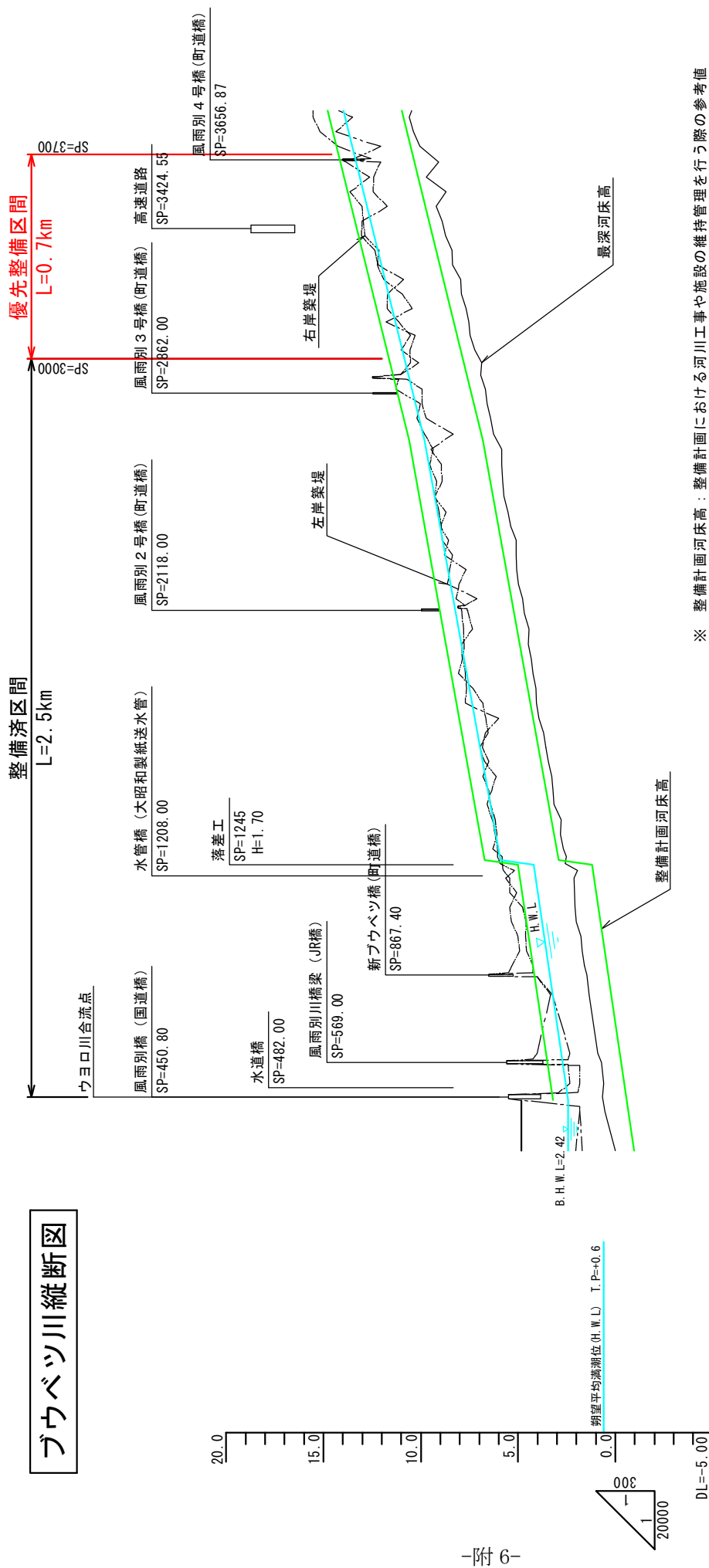
凡 例	
	現況断面
	整備計画河道
	切 土

SP=4000付近



※ 標準断面図における形状についてはイメージを示したもので、
現地の状況等により横断形状が変わることがある。

ブウベツ川縦断面図



※ 整備計画 河床高 …… 整備計画における河川工事や施設の維持管理を行う際の参考値

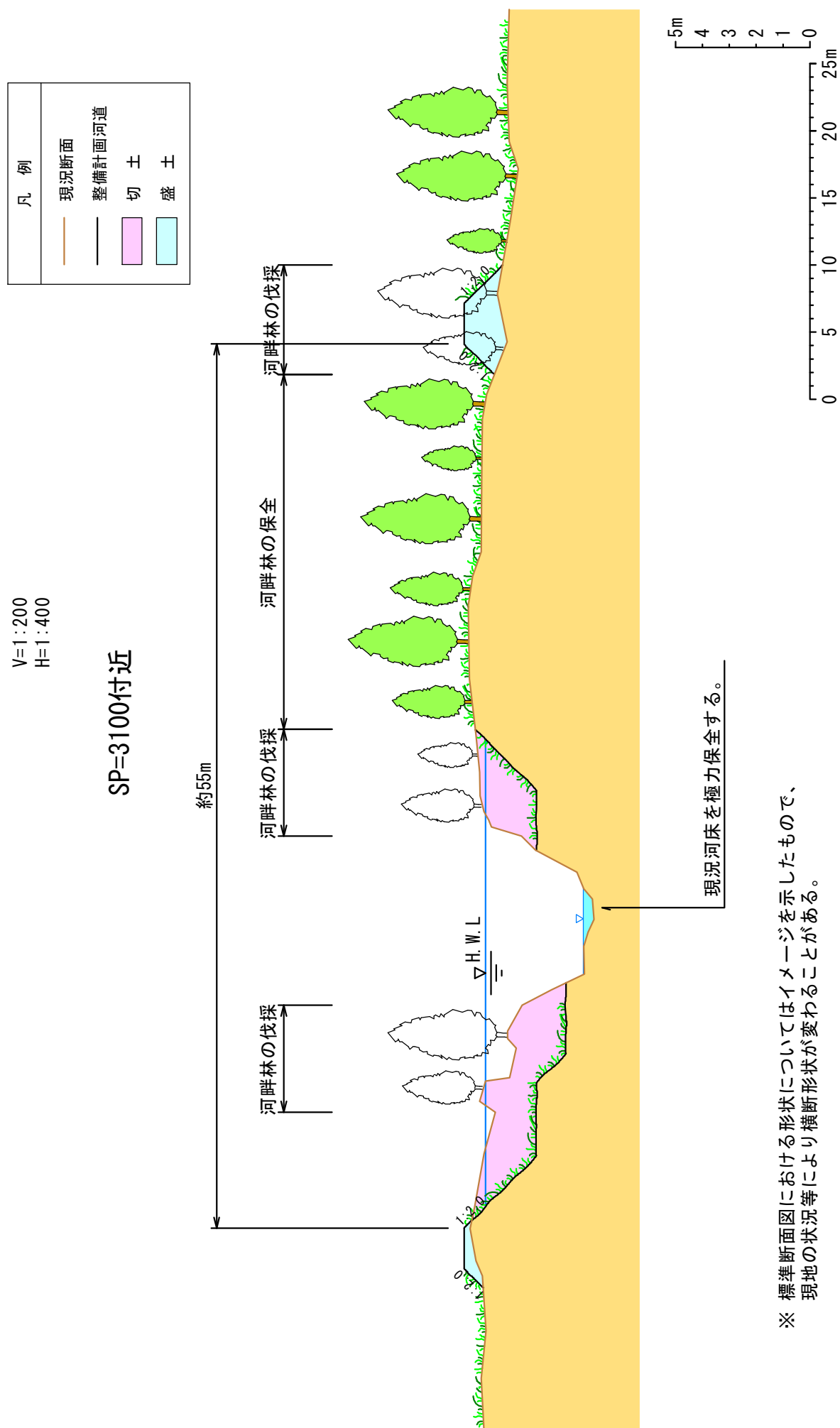
断面	点
整備計画河床勾配	265.00 — 440.00 — 1245.00 — 1262.00 — 2700.00 — 3830.47
整備計画河床高	— 0.97 — -0.58 — 1.231 — 1/10 — 6.80 — 10.99
計画高水勾配	LEVEL — 1/450 — 2.42 — 1/370 — 1/270 — 9.80 — 13.99
計画高水位	— 3.22 — 2.42 — 5.491 — 1/10 — 9.80 — 13.99
計画築堤高	— 3.22 — 2.42 — 5.01 — 6.71 — 10.60 — 14.79

注）実施にあたっては、今後の測量結果等により、新たに工事が必要となる場合や内容が変更となる場合がある。

図断横表ベッツ川代表

V=1:200
H=1:400

SP=3100付近



※ 標準断面図における形状についてはイメージを示したもので、
現地の状況等により横断形状が変わることがある。